

令和5年度金子小学校区学校運営協議会

1 日時 令和6年2月28日(水) 10:15~11:00

2 内容

- ・ 児童アンケートの「友達を大切にしている」という項目が98.1%になっている。授業参観をした際、各クラスの背面に「ふれあいコーナー」があった。いいなと思ったことや感謝の気持ちなど友達へのメッセージが書かれており、アンケートの結果につながっていると感じた。
→ 帰りの会でも、「今日のはなまるさん」など頑張った人を紹介する活動を行っている。友達の頑張りと良さを言葉にして伝えるという活動を大切にしている。
- ・ 授業を参観し、子どもたちの元気があり、雰囲気も良かった。自由に意見を言える雰囲気があるのはとても良い。先生のボイスシャワーがあり、丁寧に指導が行われていた。
- ・ 「挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣が身に付いている」の項目で、保護者は90.7%であるのに対し、児童は86%、教職員は69.2%となっている。地域で朝見守りを行っているが、挨拶の声は小さい。挨拶をすると返ってくるが、中には挨拶をしても返ってこないこともある。
- ・ 旗当番をしても挨拶の声は小さいと感じる。登校班長によることも多く、班長がしっかり挨拶ができているところは、大きな声が返ってくる。班長会などで呼び掛けていくと変わるのではないか。
- ・ 中学生の下校指導の際に、下校している小学生に出会うことがあるが、「さようなら」と大きな声が返ってきている。もしかしたら、朝の挨拶というのがなかなか難しい実態があるのかもしれない。
- ・ 「早寝早起きができている」の項目では、保護者が77.5%、児童が70%となっており、早寝早起きできていない実態が見えてくる。スマホやタブレットなどを遅くまで見ていると寝る時間が遅くなり、睡眠時間も少なくなる。朝起きられず、朝御飯を食べる時間がない、朝余裕がないまま登校しているので、朝の元気な挨拶へつながらないのかもしれない。
- ・ 共働きも影響しているかもしれない。親が遅く帰ってくると、食事や団らんの時間も遅くなる。日頃忙しいので、土日に出掛け帰りが遅くなり、次の日に影響することもある。
→ 児童の挨拶については、学校でも課題と捉えている。継続して指導を行うとともに、背景にある基本的な生活習慣について、今年度の学校保健委員会でも「早寝早起き朝ごはん」を取り上げ話し合いを行ったが、今後も児童に指導を行うだけでなく、保護者にも啓発を図っていく。
- ・ 家庭にタブレットを持ち帰っているが、持ち帰りのことについて使用時間などルールは決まっているのか。家庭でも呼び掛けていく必要があると感じる。
→ 年度当初に、タブレット学習の約束や持ち帰りの約束のプリントを配布し、児童に指導を行っており、同様のものを保護者にも配布し、家庭での使用についても呼び掛けている。児童には「タブレットは学習の道具として使用する」ことを徹底しているが、十分に守られていないこともあるのが実態である。学校では、情報モラル教育を学期ごと、機会を捉えて行っているが、保護者にもタブレット学習の様子や持ち帰りの使用について、年度当初だけでなく、継続して周知していくようにする。
- ・ 「学校は、子どもや保護者の悩みに適切に応じている」の項目について、保護者は85.4%である

のに対し、教職員は 100%となっており、ずれが見られる。不登校傾向の児童に対し、担任はアプローチしていることと思う。中学校においても生徒に困り感は少ないが保護者は困り感を持っており、保護者との話合いや保護者に寄り添う時間を作らねばならないと感じている。教員は関わっているつもりでも保護者はもっと関わってほしいと思っているのかもしれない。最初のアプローチを丁寧に行っていく必要があるだろう。また、日々の生活の中のトラブル、落ち着かない子についてのトラブルを引きずっている場合もある。保護者の理解を得られるよう、教師が頑張っって説明していくようにするしかない。

- ・ 学校、家庭、地域との連携についての項目が、保護者が 72.2%、児童が 42%と低い。地域が一体となってやろうと思うが、どうしていったらいいか分からないという思いもある。愛護班などへの呼び掛けの機会もない。個人情報、自治会への参加率の低下もあり、地域に 1 年生がいるのかも分からないこともある。

→ 今年度もたくさんの教育活動において、地域の方のご協力をいただき、充実した活動を行うことができ、感謝している。教員が金子校区の皆さんが地域の子どもたちのために来てくださっていることや登下校など日頃から地域の皆さんに支えられていることなどを話すことが十分にできていなかったと思う。地域の皆さんと一緒に地域の将来を担う子どもたちを育てていけるよう、指導を続けていきたい。また、地区集会を通じて呼び掛けやチラシの配布を行うこともできる。地域行事や地域交流センターの行事についても周知を図りたい。